

# 单身ブラジル。 人生は1回だから。

玉名市で育ち、  
地球の反対側へ飛び出した  
20歳のプロサッカー選手



## もがきながら成長した1年

ブラジルでプロ契約し、1年目のリーグ戦を終えた藤尾さん。昨季はミッドフィルダーとして公式戦10試合に出場し、1ゴールを挙げました。

1年目の第一目標は、試合に出ること。しかしそれは、なかなか叶いませんでした。日本人は自分だけ。現地のポルトガル語が分からず、仲間からのパスが回ってこない日々。調子が上がっていた9月には、膝を損傷して手術しました。

苦しい中でも楽しむことを一番に考え、努力を重ねて磨きかけた自分らしいプレー。偶然出場した試合でチームが勝利し「やれるんだな、自分でも」と自信に繋がりました。満足な結果は残せなかったものの、自身のプレーや考え方の成長を実感しています。

「技術は日本の方が優れていますが、日本にはない姿勢がブラジルにはあります。プレーにする熱量が圧倒的に高いで

す。本能のままにプレーし、喧嘩しながら思い切って挑戦する。それが身近にすべて、とても良い環境にいます」

## 自分で決めたブラジル行き

5歳でサッカーを始め、県内のクラブチームに所属。試合を組み立てられる選手に成長し、高校女子サッカーの名門・日ノ本学園高校（兵庫県）に進学。1年からメンバー入りし、高校総体や全日本選手

権の優勝に貢献しました。

環境が変わっても自分らしく笑顔でプレーできるから。同級生が大学へ進む中、ブラジルを選んだ理由は「自分の力を試したかったから」。住居やチームが未定であること

を周囲は心配しましたが、単身でブラジルに渡り、練習生として修行しながらチームを探しました。

母・真紀さんは「本人のしたいようにさせたくて、背中

を押ししました。もし病気や怪我をしても、農家だから無職にはなりません。なんとかやるから大丈夫」と笑顔で話します。挑戦すれば、それはすでに成功していることと同じ。

なによりも人生を楽しむことを大切にしたい選択でした。

## 慣れない海外生活も楽しく

生活はチームの寮で。周囲の真似をしていると自然と言語は身に付き、ブラジルでの



横島町横島・有明中出身、20歳、女子プロサッカー選手。  
2017年3月高校卒業後、単身ブラジルに渡り練習生として修行。  
同年12月、ブラジル女子プロサッカー1部リーグに所属する「スポルチ・レシフェ」（ペルナンブコ州レシフェ市）とプロ契約。  
▲2枚の写真は、ペルナンブコ州の大会で優勝したときのもの

今年1月一時帰郷し表敬訪問。  
実家で美味しいお米とトマトを食べました！



# 藤尾 桐原 きらら



①1段目中央：10歳頃にクラブチームの仲間と②右：日ノ本学園高校でプレー③右から2番目：高校1年生。インターハイ優勝④2段目左側：ブラジルでチームテストに合格し、試合を見に行ったとき⑤中央：ブラジルでライバルチームと練習試合⑥右：スポルチ・レシフェで活躍 ※写真は全て藤尾さん提供

藤尾さんの強みは、小柄な体格を活かした細かな素早い動き。「2年目は、試合運び、ゴールに直接繋がられるようなプレーをしたいです」と次の目標を掲げ「夢は、なでしこジャパンに入ることです！」と力を込めました。

ポジティブでひたむきに挑戦する藤尾さん。スポルチ・レシフェとは単年契約。別のチームに移籍する予定ですが、また1年ブラジルでプレーすることは心に決めておられます。地球の反対側で挑戦する藤尾さんを玉名市から応援しましょう！